

日英放送翻訳

—翻訳のスキルを超えて何が求められるか—

奥山奈穂子

(放送翻訳者)

日本で製作される英語放送には、在日外国人やインバウンド向けの地上放送や、海外向けに発信しているラジオ・TV の国際放送などがある。日本語原稿をもとにニュースを書く人たちを、「翻訳者」ではなく、「ライター」と呼ぶ現場もある。それは「翻訳者」としての深い日本語の理解力と高度な英語力に加えて、ジャーナリスティックな配慮や、視聴者や分野を考慮した、微妙な書き方の匙加減が要求されるからである。部外者である「ライター」には最終編集責任はないが、それでも放送という時間的な制約がある現場で、第一稿を書く「ライター」への要求は高い。「ライター」として一般的な翻訳能力以上に何が必要か、現場での経験をもとに論じる。

私が訳しているのは、海外向け放送のニュースの元原稿、経済ニュースや特集の元原稿、インタビュー番組の台本原稿、国際ラジオ放送の英語原稿(この原稿は十数言語への翻訳の元になる)である。

それぞれに別な視聴者がいて、それに応じた翻訳をしなければならないのだが、まずはあらゆる視聴者に共通の留意点について論じる。

第一に偏見・差別のない中立な報道である。日本だけを偏重するような表現、特定の国・地域・宗教・人種・民族・年齢層・職業・性的志向などを理由に、差別するような表現は避けなければならない。

第二に、品位を保つことも必要だ。スラング・蔑視表現・卑猥な表現などは使用禁止である。

第三に一般的に視聴者は、年齢も経歴も視聴のスタイルもさまざまであるから、専門用語などはできる限り避け、平易な表現にすべきである。日本語原稿でも漢語表現よりやまと言葉を使うのに準じて、英語も、音節の多いラテン語由来の単語より1音節のゲルマン語由来の単語を使用する。

以上の点は、大方のメディアのハンドブックにも謳われている項目である。

視聴者に応じて配慮する点は、異なる単位の換算、日本独特の政治・経済・文化事情、日本の国内ニュースの扱い、映像の有無などである。日本国内の英語放送であれば、日本時間が基準で構わないし、通貨も円表示のまま、地名などの日本事象について、海外向けほどは説明が要らないだろう。国内ニュースをすべて伝えても、日本に住む外国人向けなら意味があるだろう。

一方、海外向け英語放送では、すべて米ドルに換算、現地時間が基本で、日本の政治や文化などについては背景説明をつける必要があるだろう。日本のニュースは何が起こったかを伝えることを主眼とし、詳細は一般視聴者にとってニュースバリューが少ないことが多い。ラジオ向けでは

映像が見えていないことを常に意識する。またラジオ向け英語原稿は、それをもとに、ほかの十数言語に翻訳されるため、英語のプロではない多言語の翻訳者にもわかる表現を使う。各国の視聴者の特徴・ニーズはわからないため、こちらで取捨選択せず、全部訳した方がいい。さらに分野によっても、コンテキストに合った訳し方を心掛けなければならない。

日英放送翻訳において良い原稿を書くために必要な条件としては、「基本的な英語を書く力（語彙、文法、構文力）」を土台に、①スピード、②正確さ、③適切な内容と伝え方の3点が挙げられると考えられる。

日本語と英語のニュース原稿の書き方の違いとして、日本語原稿はピラミッド型、英語原稿は逆ピラミッド型であると一般には理解されている。日本語の場合、背景説明のあとで、「何が起こったか」を伝えることが多い。他方、英語の場合、まず「何が起こったか」を伝え、その後に、その詳細や背景となる情報を伝えるという構成を取る。

以下は、英日原稿の違いの一例である。（例文は筆者が任意に作成した架空のもの）

[日本語原稿]

昨夜、千葉県市川市で無職の男が、78歳の女性の自宅に押し入り、冷蔵庫からビールを取り出し飲んだあと、女性を後ろ手に縛り、逃走しましたが、今朝、千葉県警察本部は、この男が市内のコンビニエンスストアにいたところを逮捕しました。

[英語原稿]

Police in Chiba Prefecture has arrested an unemployed man on suspicion of burglary.

The police say the arrest was made at a convenience store in Ichikawa City.

The man broke into the home of a 78-year-old woman in the city last night.

He reportedly drank beer he had taken out of the refrigerator.

He bound her hands behind the back and fled.

日本語では1センテンスの原稿を、英語では5センテンスに分けて訳している。英語では **One sentence, one idea** が原則だからである。その他にも情報源を明示すること、形容詞等を使って、情報に色付けをしないという配慮も必要である。

以上、日英放送翻訳ライターとして求められるものについて述べてきたが、あくまでこれは、私が研究したり仕事をしたりするなかで体得してきた私なりのやり方で、特定の局などの放送翻訳の方針ではない。また、このやり方についても、コンテキストや状況に応じて、臨機応変に柔軟に運用する重要性も強調しておきたい。